

一般会計決算に対する討論

平成20年度一般会計決算は、9月定例会最終日に認定されました。この議決に先立ち、同決算に対する討論が行われ、5人の議員から賛成意見が、2人の議員から反対意見がありました。その概要は次のとおりです。

賛成

歳入を見ると、企業収益の減少から法人市民税が大幅な減となったことから、市税全体では7000万円の減収となつて

時代の流れとともに、市民の行政需要は多様になっていて、市民、議会、行政が一丸となり、厳しい経済情勢を乗り越えらるる行政経営が必要である。限られた財源を効率よく、最大の効果を上げるよう、健全な財政運営に努めることを要望し、本決算に賛成する。

(市民会議21)

減に努めている。財政面では、景気後退による市税の大幅な減収など楽観できる状況ではないが、財政の健全性の確保と住民福祉の向上に努めるよう切望し、本決算に賛成する。

財政健全化法に基づき、財政健全化4指標が公表されているが、平成20年度も、実質赤字比率と連結実質赤字比率は、ともに赤字を示していない。また、実質公債費比率が10.5%、将来負担比率も112.3%と健全化判断基準を

は、いずれも早期健全化基準を下回り、健全化が維持されている。主な事業を見ると、後期基本計画策定に着手した。行政経営の目標を示すだけでなく、市民と共通のまちづくりの目標として、市民の目線に立った計画づくりを願う。このほか、いくつかのマスタープランの策定が行われているが、十分な連携を要望する。

昨年年度は本市にとって、市制施行30周年を迎えるとともに、笠間市長にとつても新たな船出の年であった。こうした中、新規事業の成果として、まず、図書館への指定管理者制度の導入があった。開館日数を増やし、図書相談体制を充実するなどのサービスが提供され、利用者数や貸出件数が増加した点を評価する。次に、将来の本市の道筋を定める後期基本計画策定への着手

を要望し、本決算に賛成する。

平成20年度一般会計歳入歳出決算を見ると、歳入は245億8000万円、対前年度比1.0%増、歳出は239億3000万円、対前年度比4.3%、9億8000万円の増となつて

財政健全化指標から見た市の財政状況は、赤字が黒字かの適正値である実質収支比率が3.3%、財源の余裕度である財政力指数は1.08となつた。平成22年度からは財政力指数は上がる仕組みで、全国

を整備した。多数の市民の利用を期待する。以上、20年度の市政運営は高く評価されるものとして、また、今後、感度の良い市政運営がなされることを期待し、本決算に賛成する。

(新綾クラブ)

一般会計決算歳入・歳出の状況

